

**13/07/31**  
**No.137**

# NewStage60

**名峰白山**  
**南竜ヶ馬場**

## 白山登山前にも すごいお楽しみがあった！

翌日(7月24日)の白山南竜集中登山のアプローチは、ぜひ一緒に歩こうというメンバーが小松空港に集合。降り立ったのは、千葉在住の博道さんと鍋島の二人。迎えてくれたのは穴田さん。3人一緒の出会いは、2007年2月2日(KUWN OB懇親会)以来のようだから、久しぶりの出逢いだ。

夕方の懇親会までの時間を活用し、穴田さんの車で、加賀大聖寺の『深田久弥山の文化館』に向かった。が、休館日なので玄関での記念撮影のみ。



全昌寺の見学の後、粟津の穴田家に向かった。そこで見たものは、都会の大多数のサラリーマンが定年後の生活として憧れるが、決して手に入れることができないものであった。



## 都会のサラリーマンが憧れる生活だ！

母屋とは別棟に、広い土間(板間?)と畳部屋が配されており、実際に使われる薪ストーブも備わっている。家の周りにはたくさんの薪も準備されている。家の前方には、自らが耕す広い畑。その向こうには田園が広がり、そして天候次第では、名峰白山も望めるという。

さらに良いのは、穴田さんの伴侶。小松駅近くの『壺』での我々の懇親会にも参加し、山男達の話にもきさくに乘っていただき、会を盛り上げていただきました。穴田さんの幸せ度は上の笑顔の写真で一目瞭然だね。

## 残念！山の文化館は休館日



## 全昌寺 風情もありいいね！

その後のドライブの途中で、吸い込まれたように立ち寄ったのが、全昌寺だ。小生は全く予備知識なしに入ったのだが、見学して分かったことは、由緒あるお寺ということだ。

江戸末期の作で総計 517 体の極彩色の五百羅漢像が安置され、境内には、芭蕉と弟子の曾良の句碑が建てられている。奥の細道の行脚中に一泊し、それぞれが句を詠んだもの。何気なく、穴田さんが句を詠みながら解説してくれる。おっ、俺も句が理解できたぞ

## 国語の先生・穴田さんの解説で 芭蕉を学ぶ

よもすがら

終夜 秋風聞くや うらの山 曾良  
庭掃て 出でばや寺に 散る柳 芭蕉



- ・穴田さんはご不幸のため白山登山急きょ不参加
- ・白山登山の様子：別紙記録参照
- ・写真：博道さん提供